

「民間連携ボランティア」
株式会社サガミチェーン

本間 洋平

Honma
Yohei

海外出店に向け、
JICAボランティアを活用

カツオだしの香ばしい香りに誘われて、そば屋の前を通るとつい足を止めてしまう。そんな人も多いのではないだろうか。「就職活動で疲れていた時、いつ食べてもなぜかホッとするそばの味に魅了されました。食を通じて、多くの人を幸せにできたらと思ったんです」。そう話すのは本間洋平さん。東海地方を中心に、そばやうどんなど和食類のレストランを展開する株式会社サガミチェーンの社員だ。

本間さんは入社1年目から店舗に配属され、だし取り、麺打ち、接客など現場の最前線で活躍。3年目に

「和食の力でアジアを元気にしたい」

大都市に若者が流れ、過疎化が進むタイ中南部のチャチュンサオ県。本間洋平さんはこの地の観光業を盛り上げるため、現地の人たちと和食の調理と販売に取り組んでいる。

JICA Volunteer Story

PROFILE

1985年埼玉県出身。大学卒業後、株式会社サガミチェーンに就職。2013年3月から、民間連携ボランティア（コミュニティ開発）としてタイで活動中。



「タイ流」の和食の作り方について、100年市場の人たちと話し合う本間さん(中央)



は店舗の主任を任せられ、仕事も板についてきた。

そんなある日、一通の社内メールが届いた。「開発途上国でボランティア活動をする社員を募集します」。この数年、海外進出に力を入れ、すでに中国・上海に店舗を構えるサガミチェーン。次は、タイやインドネシアなどへの出店を検討していたタイミングだった。現地の文化や生活習慣に詳しく、語学力やコミュニケーション力を備えた人材を育てたい。JICAの民間連携ボランティア制度※を活用して、青年海外協力隊として社員を途上国に派遣することにしたのだ。

本間さんはすぐさま手を挙げた。「海外でも通用する人間になって、会社を活気づけたい」。大学時代に、日本は食料や資源の多くを途上国に頼っていることを知り、実は国際協力に憧れを抱いていた。

現地のニーズに合った和食を開発

そうして向かったのがタイの中南部、チャチュンサオ県テパラート町。首都バンコクなどの大都市に出稼ぎに行く若者が多く、急速に過疎化が進んでいる。町役場に赴任した本間さんは、この地を活気づけるため観光振興を託された。そこで目を付けたのが、町の中心部にあるクローンスアン100年市場。その名の通り100年以上の歴史を持つ市場で、半世紀以上続く有名店もあり、趣のある雰囲気がある。観光地として大きなポテンシャルを秘めているが、いかにせん、この町以外の人には知られていない。

「海外からの観光客を集めるアイデアはないかな?」。町役場の同僚に聞かれ、本間さんが提案したのは、なんと地元の食材を使った「和食」。自分のこれまでの経験をも生かせると思ったからだ。これには、「話題づくりにもってこいだ」「日本人も興味を持つてく



a.雑貨、食品、電化製品、漢方薬などを扱うお店が軒を連ねる100年市場
b.天ぷらの揚げ方を指導。本場仕込みの手際を興味津々で見つめる人々
c.町役場の同僚たち。いつも笑顔で本間さんを励ましてくれる大切な仲間だ
d.日本人観光客を想定し、接客に必要な日本語も教えている

れるかもしれない」と同僚たちも大賛成。100年市場で店を出す人たちに一品料理を教えて、販売してもらうことにした。

そこで本間さんは料理教室を開催することに。しかし準備段階で問題が発生した。和食を作ろうにも、ここはタイ。食材は日本と形や味が違うものも多く、天ぷら用の鍋など調理用具もそろわない。

不安を覚えながら迎えた料理教室の当日。100年市場の人たちは「日本のおいしい料理を作りたい」と意欲満々。いざ、試作品として天ぷらやたこ焼きを作ってみると…。結果は案の定、思うような味が出せずに終わった。和食店で働いてきたプライドはずたずた。肩を落とさずにはいられなかった。

みんなも期待を裏切られ、さぞがっかり…。かと思いきや、「日本じゃないから仕方ない!」と笑顔で一蹴。「どうしたらうまく作れるか」を話し合い始めた。「なんでも楽しくやるのがタイ流。肩の力を抜いて、一緒に解決策を見つけていこうと思うようになりました」。本間さんにも笑顔が戻ってきた。

その後も料理教室は継続。和食をベースに現地の食材や味覚を加えた試作品が何種類も作られた。中でも、タコの代わりにウインナーを入れた「タイ流たこ焼き」は「おいしい!」と大好評。新商品として店頭に並ぶ日も近く、100年市場に新しい風が吹き始めた。活動期間は残り半年。今の目標は、この町に一人でも多くの観光客に来てもらうこと。そして帰国後の活躍も楽しみだ。サガミチェーン管理・統合推進部の三谷正和次長は「タイが『第二の故郷』と言えるくらい現地に入り込み、人脈を広げてきてほしい。将来は、タイをはじめASEAN地域への出店を引っ張ってもらいたい」とエールを送る。本間さんも「タイと会社の懸け橋になりたい」と目を輝かせ、日々奮闘している。

※民間企業から社員をJICAボランティアとして開発途上国に派遣し、企業のグローバル人材の育成に貢献する制度。各企業のニーズに合わせて受入国、期間、職種などをアレンジできる。